

中部運輸局海事振興部

令和5年2月20日定例記者懇談会発表



C to Seaプロジェクト
海や船が「楽しく身近な
存在」になるための取組み。
ポータルサイト「海ココ」→



連絡先

国土交通省中部運輸局海事振興部

貨物・港運課 落合、橋本、澁谷

TEL 052-952-8014

「第20回中部地区内航海運活性化懇談会」を開催します！

内航海運は国内貨物輸送の約4割、産業基礎物資輸送の約8割を担う、我が国の経済活動と国民生活を支える物流の大動脈ですが、一方で、船齢14年以上の老齢船が約7割超、50歳以上の船員が約半数を占める状況となっており、いわゆる船舶と船員の「二つの高齢化」や中小事業者が99.7%を占める脆弱な経営基盤への対応など、様々な課題を抱えている状況にあります。

中部運輸局では、管内内航海運関係団体との情報交換や意見交換の場として、平成18年10月に「中部地区内航海運活性化懇談会」を設置し、関係者が一体となって中部地区における内航海運活性化のための諸方策について検討を進めています。

この度、第20回中部地区内航海運活性化懇談会を開催しますのでお知らせします。

(1) 開催日時

令和5年2月22日（水）14時00分～16時30分

(2) 開催場所

名古屋合同庁舎1号館（名古屋市中区三の丸2-2-1）
11階運輸大会議室

(3) 構成者

中部沿海海運組合、東海内航海運組合、静岡県内航海運組合、
全国内航タンカー海運組合 東海支部、中部運輸局

(4) 議題

- ①内航総連における取引環境の改善の取組について
～ 安定・効率輸送協議会への対応を中心に～
日本内航海運組合総連合会 企画調査部長 土居 俊彦
- ②各組合における現状と課題
- ③若年内航船員の確保対策

(5) 事務局

中部運輸局海事振興部 貨物・港運課

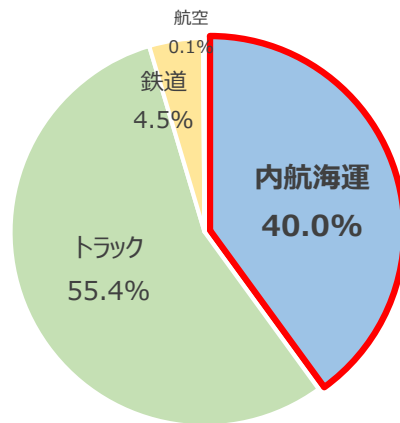
※取材・写真取りについては、冒頭のみ（議題開始前まで）とさせていただきます。

国内の貨物輸送モードは、トラック・鉄道・航空そして内航海運がありますが、内航海運の貨物輸送活動量は、国内全体の40%を占めています。

輸送機関別の輸送活動量

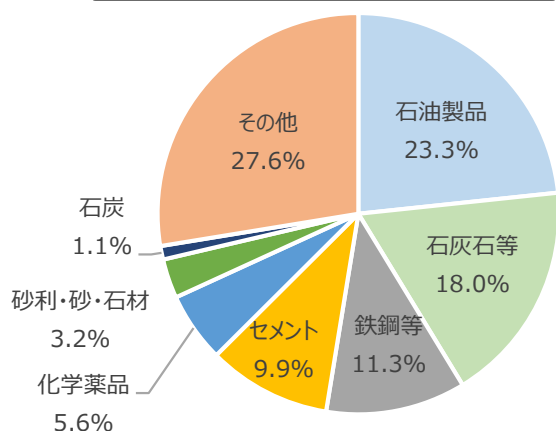
輸送活動量（百万トンキロ）				
内航	トラック	鉄道	航空	計
161,795	224,095	18,042	584	404,516
40.0%	55.4%	4.5%	0.1%	100.0%

トンキロ：1トンの物を1km運ぶ単位

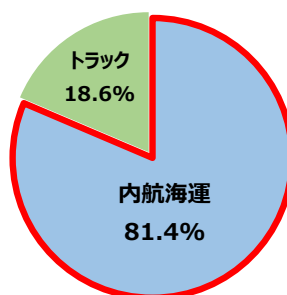


内航海運は、大量・長距離の貨物輸送に適した輸送機関であることから、石油製品、セメントなど我が国の経済や国民生活を支えるうえで重要な産業基礎物資の約8割（トンキロベース）を輸送しています。

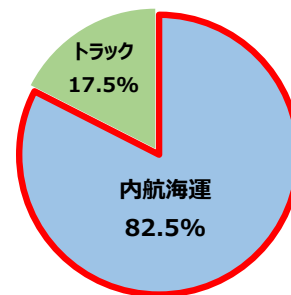
内航海運による輸送主要品目



石油製品

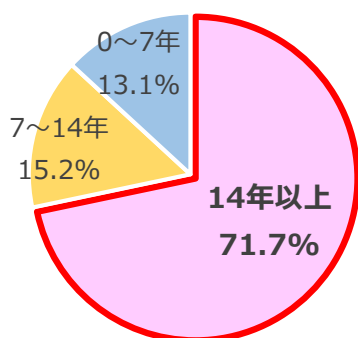


セメント



内航海運業者の99.7%は中小企業であり、脆弱な経営基盤により、新たな設備投資ができずに約70%の船舶が船齢14年以上となっています。

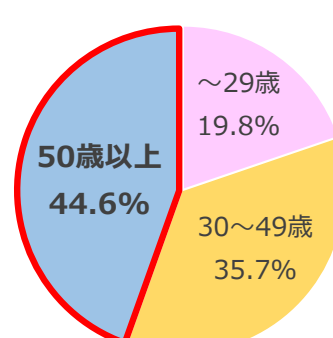
内航船舶の船齢構成



内航海運の主流船舶の法定耐用年数は14年

内航船員のうち50歳以上が占める割合は約45%で、陸上の全産業平均の約43%を上回り、今後の船員不足が懸念されています。

内航船員の年齢構成



内航海運業者の脆弱な事業基盤、船員の高齢化と今後の船員不足への懸念という現状を踏まえて、荷主等との取引環境の改善や若年船員の定着等による船員の確保を図り安定的な輸送を確保するため、内航海運業法等が改正されて昨年（令和4年）4月に施行しました。

